

## 平成28年度 社会福祉法人かすみ会 事業報告

### 1. 総括

平成28年度は、かすみ会にとっては創立25周年の節目の年であった。創立記念祭においては法人の設立前よりご協力いただいた皆様も含め、これまでの多くの支え、励まし、お力添えに対し、感謝をお伝えする機会となった。

一方、社会福祉法人をめぐる制度改革においては、平成29年度の本格実施に向け、定款や組織等基本事項の変更に伴う準備に追われる一年であったが、こちらも関係の皆様のご理解とご協力により大きな混乱もなく準備が進められたことに感謝を申し上げたい。

7月には、相模原における障害者支援施設での事件が起こり、当法人としても人権意識、権利擁護意識の浸透をはかるよう研修等を進めてきたなかでの事件であり、大変痛ましく悲しい事件であったが、あらためて、利用者の尊厳を守る視点に立って私達の仕事を振り返るとともに、防犯対策についても見直しを行った。

利用される方が、かけがえのない存在として大切にされることを実感できるような支援を組織全体で共有し、実施していくとともに、今後も社会福祉法人としての役割、存在意義を確認しながら、利用者、地域、社会に貢献を果たしていきたい。

### 2. 事業の総括

#### (1) 法人行事

かすみ会創立25周年記念祭を実施した。前年度秋より実行委員会を立ち上げ準備をすすめた。各種催しを行い、一市四町の関係機関の皆様や地域住民の方々に多数お越しいただいた。地域の皆様との相互理解を深め信頼関係を築いていく機会として有意義であった。

また、例年海瀬町の寺院をお借りして行っていた物故者法要を、今年度より交流施設こもれびで行った。

#### (2) 社会福祉法人制度改革への準備と取り組み

社会福祉法人制度改革の状況についての情報収集を行い、スムーズに移行できるよう準備を行った。新制度に対応した定款に変更するとともに、評議員選任解任委員会の設置、新制度における評議員の選任等の手続きを進めた。

#### (3) 人材の育成と虐待防止

##### ①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念、行動規範の掲示物を大きく見やすいものに変更し、各職員会議等を利用して再徹底した。NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を各事業所で視聴し、理念のより深い理解と浸透を図った。

##### ②個別支援計画を重視した取り組み

利用者個々の障がい特性や希望に即した個別支援計画の作成に心がけ、その実現に向けた支援に取り組んだ。

##### ③外部研修への参加

(i) 虐待そのものへの見識を深めるための研修参加

(ii) 専門性、支援技術の向上のための研修参加

##### ④新人研修における虐待防止の徹底

座学での新人研修やフォローアップ研修により、虐待防止に関する基本的な理解と実際の支援場面での対応を徹底した。

⑤虐待防止委員会の開催（2回）

⑥虐待防止全体研修の実施（10月）同日同内容2回の講義。

研修：1. 障害者支援のプロフェッショナルとして

2. 危機介入感情のコントロールの難しい利用者への対処

3. 障がい者支援の意義

利用者と支援者、いずれもが人としての権利を守られる、プロフェッショナルな職員集団を目指した講義

（4）苦情相談日の継続実施

苦情を大切にすることの重要性を踏まえて、月1回第三者委員の3名の方による相談日を設けている。交流施設こもれびを利用し、相談者のプライバシーを確保した中で行い、第三者に話を聞いてもらえる場として利用者の方にも寄与している。

（5）防犯対策の実施

・防犯対策の強化策として、防犯カメラを設置するとともに、女子棟の掃出し窓の外側に防犯フェンスの設置を行った。

・7月の相模原での事件をうけ、地元駐在所、彦根警察署を訪問し、連携強化や巡回強化をお願いした。また、彦根警察署よりお越しいただき、防犯対策に対する助言を受けた。

（6）福祉避難所について

彦根市より災害時の要配慮者の二次避難場所として、福祉避難所の協定締結の要請があり、交流施設こもれびを福祉避難所として利用することで協定締結する方向で検討を進めた。

（7）高齢化対策への取り組み状況

利用者の心身の状況に応じて必要な場所で必要な支援が受けられるよう、制度の枠組みを超えて連携していく必要がある。当法人には高齢者の事業がないため、前年度、高齢者施設を運営する法人を訪問して、障害福祉がおかれている現状に理解を求めご協力をお願いした。

平成28年度は、7月と8月の2回に分けて高齢者施設運営法人の事業所を職員が見学し、食事や入浴介助、機器使用の状況等を研修した。

（8）新規事業に関して

新規のグループホームの整備計画について、行政への協議をすすめた。

（9）人材確保対策

当法人にとって人材確保が最重要課題の一つであるため下記の取り組みをした。

（具体的取組状況）

・求職者用パンフレットの作成

・ホームページにおける法人・事業所情報と求人情報の発信

・就職サイトの活用

・見学会の実施

・福祉人材センター主催職場説明会等への参画

・彦根職業安定所主催かすみ会就職現地説明会の開催

・内定者への取り組みとして、かすみ会行事の案内や内定式、懇親会等の実施。

#### (10) 情報発信

- ・前年度一新した法人広報誌かすみ会だよりを、圏域行政、社協、利用者家族、地域住民等へ継続して4回発行した。
- ・ホームページ、ブログを用いた地域への情報発信を継続し、かすみ会の地域への浸透に努めた。

#### (11) メンタルヘルス対策

- ・平成28年4月より施行の法的義務であるストレスチェックを4月の健康診断の時期に合わせて実施した。

#### (12) 安全運転に関する事

- ・安管だよりを発行し、職場内の安全運転に関する啓発を行った。
- ・職域別無事故運動に参加し、無事故を達成した。

#### (13) 自立支援協議会

- ・地域の課題として、養護学校卒業後の重度の方や行動がいのある方の日中活動の場や生活の場が足りない状況があり、生活介護の枠組みで作業もできる場が足りないことが議論されている。また計画相談に対する新たなニーズに応えきれていない現状があり、圏域内での相談支援専門員の増員が求められている。

### 3. 具体的事項

- |             |         |
|-------------|---------|
| ①理事会の開催     | ( 8回 )  |
| ②評議員会の開催    | ( 6回 )  |
| ③安全衛生委員会の開催 | ( 12回 ) |
| ④第三者委員会の開催  | ( 2回 )  |
| ⑤虐待防止委員会の開催 | ( 2回 )  |
| ⑥事業管理会議の開催  | ( 10回 ) |
| ⑦広報委員会の開催   | ( 5回 )  |

## 平成28年度 かいぜ寮 事業報告

### 1. 総括

#### (1) 施設入所支援事業・生活介護

入所者の状況は、男性利用者を2名受入、女性利用者で高齢の方が1名亡くなられた。また、1名(女性)が介護施設へ移行された。過去3年間で病気による死亡4名、介護施設への移行3名と高齢化(重度化)が深刻な課題となっている。利用者の最高齢は84歳(女性)、一番若い方は19歳(男性)で、平均年齢は、男性44.3歳、女性53.4歳で全体の平均は、48.5歳となっている。(H. 29. 3月末)

運営面においては、1月は施設としてはこれまで経験のない大雪に見舞われ、利用者の活動や外部利用、職員の出勤、業者の搬入等にも影響が出て、除雪等の対応に追われることとなった。また、3月にはインフルエンザが流行し、こちらも利用者の生活や活動を制限せざるを得ず、また外部の利用者の方にも影響が出て、ご迷惑をおかけした。予防に留意してただけに残念であった。いずれも事前準備や予防の見直しを図りたい。

## (2) 生活介護（外部利用者）

前年度同様、利用希望者が増加しており、短期入所、日中一時支援事業など、各種サービスを組み合わせての受入れを行っているが、希望者が多いため、今後も学校や関係機関と連携していく必要がある。

## (3) 短期入所

今年度も利用希望者が多く、特に緊急時の利用希望が多く見られたが人員体制が伴わず、止む無くお断りすることもあった。

## (4) 日中一時支援事業

前年度同様利用者の多くは、地域の作業所を利用された後の時間帯に集中している。また、新規利用希望も多く、受け入れ体制の整備が必要である。

## 2. 重点課題に取り組んだ事項

### (1) 利用者理解、虐待防止、権利養護意識の浸透、人材育成に関すること

- ・利用者個々の障害特性を踏まえた個別支援計画の重要性の共有と浸透を図った。
- ・虐待防止の研修に参加し、職員間で共有した。また、職員会議等を利用し、DVD研修や虐待の理解を図るための研修や啓発を行った。

### (2) 組織内、職場内のコミュニケーション、情報共有に関して

- ・職員間で情報の共有が図れるよう、業務日誌や報告書等の見直しを行った。
- ・小グループでの会議を実施し、職員間のコミュニケーションが図れ、利用者支援に活かされた。

### (3) 高齢化（重度化）対策について

- ・高齢者施設を見学、研修できたことで、介護技術や食事・入浴に関する援助法を学び、利用者の対応にあたることができた。

### (4) 行動障がいのある人の支援について

- ・行動障害に関する研修会に参加し、利用者の特性を理解し、療育や行動に関する改善方法を学習することで、個々の障がい特性に合わせた環境を提供することができた。

## 3. 活動報告

### 日中活動

- ・サロンA班・サロンB班・療育班・ものづくり班の4班に分かれ、個々の状態に応じた活動を提供した。
- ・気候の良い時期には、ラジオ体操と20分程度のグラウンド歩行を行った。
- ・週2回、活動場所の清掃を利用者と共に行う時間を設けた。
- ・目的に沿った対応を行えるよう、個別のマニュアルを新たに作成した。
- ・班内でグループ分けを行い、一人ひとりに支援が行き届くように改善した。

### その他

- ・利用者朝礼：毎週、週の予定の確認や医務連絡、栄養士の食事に関する話、食事リクエスト、体操などを行った。また、月初めには誕生会を開催した。
- ・作品展示、出展：ギャラリーにて常設展示、また稲枝文化祭、ぴかつ to アート展への展示を行った。
- ・余暇支援：ドライブ・ビデオ鑑賞、折り紙、塗り絵、お菓子作り、散歩など

## 共通行事

月	行 事
4月	お花見
5月	彦根学園祭(15日) 彦根市立病院ふれあいまつり (28日)
6月	かすみ会創立25周年記念祭 (4日)
7月	参議院議員選挙、期日前投票 (10日)
8月	納涼祭 (7日)
9月	知ハン協スポーツフェスティバル (2日) 滋賀県合同避難訓練 (11日)
10月	三津町町民フェスタ (9日) 海瀬町運動会(10日) レクリエーション (25日)
11月	稲枝文化祭 (4日) 秋の味覚を食する会 (12日) 文化の集い (15日)
12月	ぴかつ to アート展 (8日) クリスマス会 (22日)
1月	初詣 (3日) 新年会 (11日)

## 共通の活動

### ① 実習生の受け入れ

平成28年度は大学1校と短期大学3校の実習を受け入れた。また、教職免許法による介護体験事業の受け入れにより1名の学生を受け入れた。

### ② 環境整備ボランティア

日付	団体名等	内容
4月29日	天理教江東支部	除草作業
5月14日	家族の会	除草作業
6月12日	海瀬町婦人会	除草作業
9月30日	海瀬町新生会	除草作業
10月12日	愛荘町秦荘日赤奉仕団	除草作業
10月 8日	家族の会	芋掘り
12月10日	家族の会	室内清掃
3月 9日	稲枝クラブ	室内清掃

### ③ 行事ボランティア

日付・行事	団体名等
6月4日 かすみ会創立記念祭	稲枝地区民生委員児童委員協議会、ボランティアグループほほえみ、日赤奉仕団稲枝分団、愛荘町民生委員児童委員協議会、彦根みずほライオンズクラブ、彦根市社会福祉協議会（地域包括支援センターいなえ）
8月7日 納涼祭	ボランティアグループほほえみ、日赤奉仕団稲枝分団、彦根市社会福祉協議会（地域包括支援センターいなえ）

### ④ 危機管理

- ・相模原事件を受け、彦根警察署の指導を受け安全対策等のご指導を頂いた。
- ・防災対応マニュアルを基に避難訓練を実施した他、彦根市防災訓練に参加し、緊急時対応のための実践力を高めた。また救急救命研修を実施した。

訓練日	訓練内容	
5月17日	水害	避難訓練
7月25日	火災	通報訓練・避難訓練・消火訓練（夜間想定）
9月11日	所在確認	彦根市合同防災訓練
11月15日	火災	通報訓練・避難訓練・消火訓練
11月24日	救命	AED訓練
2月9日	火災	通報訓練・避難訓練・消火訓練

#### ⑤外部研修

・新人職員研修・接遇マナー研修・高齢者法人の施設等で研修し、仕事への心構えや専門知識の習得を図り、サービスの質向上と職員のやりがいにつなげた。

#### ⑥会議・委員会

・各部署会議を行うと共に、法人各委員会と連携し、円滑で効果的な施設運営に努めた。

#### ⑦医務

・28年度の入院利用者は9名と昨年度の11名と比べると減少した。利用者の高齢化が進む中、体調の変化に重点をおいて観察し、早期に医療へ繋げるようにした。しかし通院治療では対応できない疾患が多く、点滴、投薬、検査、安静療養が必要となり入院治療を受ける利用者が8名（内1名は精神科、眼科の2科で入院）おられた。入院期間は5例が2週間未満で2例は1ヶ月から2ヶ月未満、1名は2ヶ月以上の入院となり、入院中肺癌が脳に転移し亡くなった。通院については3月のインフルエンザ集団感染で内科受診者が増えた。また皮膚科、歯科も定期受診者が多く昨年と比べると30人近く増えている。ここでも利用者の高齢化や重度化が影響しているものと考えられる。

##### ・課題とその対応について

高齢化の進むかきざ寮では、常に医療が必要となる利用者が増えている。そして一度医療に繋がると完全治癒は難しく、長期に治療を受けることになる。どんな治療を、どこで、どんな方法で受けるのか、患者が選択できる時代ではあるが、利用者自ら選択することはほとんどが困難であるため、家族、後見人の意見が重要になってくる。常に利用者の健康状態を伝え、家族、後見人に利用者の現状把握をしてもらい、的確な医療が提供できるよう努めている。さらには、高齢利用者の生活を見直し、残る人生の過ごし方を選択できるようなサービスを調整することも急務と考える。また、延命処置の有無について家族の意向を確認しておくことも課題である。

医療の必要な利用者が年々増えている現状で、協力医療機関である豊郷病院が、利用者個々の特性を理解して受け入れてくださる状況は大変心強く、日々の安心につながっている。今後も豊郷病院との連携を大切にしていきたい。

#### ⑧給食

施設開所より25年が経過し、利用者の平均年齢も48歳以上となり、嚥下がうまくできず、誤嚥性肺炎を起こす方もあり、食事形態の見直しの必要な方、トロミ剤の必要な方が増加している。

栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケア会議を開いて、多職種できめ細かく、利用者の食事摂取状態の把握、健康上の問題点について話し合い、医師のアドバイスをいただきながら、改善してきた。また、利用者朝礼で食育を継続して実施した。

## 平成28年度 相談支援事業所かいぜ寮 事業報告

### 1. 総括

平成28年度は特に、児童のサービス利用についての相談が増えた。障害児の通所サービスとして、圏域内に放課後等デイサービス事業所が増え、それぞれの事業所の特色やサービス内容、送迎の有無など家族だけでは情報を得るのが難しいところをサポートし、利用につながることが出来た。

児童の相談に関わるなかで、家族の気になる対応や障害受容の度合いなど、それぞれの家庭の思いや抱えている問題に触れることも増えてきており、ますますサービス提供事業者や行政との情報共有や家族の思いを受け止める面談の技術などが必要とされている。

### 2. 重点課題に取り組んだ事項

#### (1) 相談の質を高めるため、研修や事例検討に積極的に参加する

- ・湖東地域自立支援協議会の各部会が主催する研修会や県発達障害者支援センターが行う公開講座等に参加した。
- ・事例検討の機会として、行動障害部会の研修会（実践編）や「湖東地域こころのケアチーム研究会」定例会等への参加を、昨年を引き続き行っている。今年度は相談支援事業所ネットワークから派生した「介護保険との連携について考えるワーキンググループ」の研修会として、事例検討を通して学ぶ機会があった。

#### (2) 委託相談を積極的に受ける

サービス等利用計画提出後より、モニタリング時期までの期間に起こった問題については、当事者や関係者、家族とも連絡を取り合いながら解決に向けて取り組んだ。

関係者会議や家族の聞き取りから新たなサービスにつながることも少なくない。また家族の問題にも直面することが多く、相談支援員のみではなかなか解決につながらないこともあり、行政との連絡調整も欠かせなくなっている。

#### (3) 虐待防止に関する取り組み

児童の計画相談支援に関わるなかで、家族が本人の障害を受け入れるのに時間が必要なケースがある。乳幼児健診を経て児童発達支援（療育教室）を利用される方々の中には家族の関係が気になるケースもあり、親や兄弟に障害が認められる場合、本人に良かれと思ってやることが逆効果になる場合も少なくない。家族の状況をよく理解し、本人にとって必要な支援が受けられるよう、行政を含む関係者との情報共有やモニタリング等家族・本人の思いを聞く場を持っており、次年度も継続して取り組みたい。

## 平成28年度 グループホーム「サンコスモ滝井」「そよかぜ」 事業報告

### 1. 総括

平成28年度は、そよかぜで1名、サンコスモ滝井で1名の入居があり、いずれも若い方で、初めて親元を離れて暮らすこともあり、関係者との情報交換等連携しながらホームの生活に馴染めるよう支援した。本人の性格や障害特性をよく理解し、心身の状態を観察、把握しながら、自尊心を大切にされた支援が求められるとともに、障がい内容に関する知識（専門性）も一層必要となっている。

一方、加齢による身体機能の低下により転倒の危険性が高い方がおられる為、より一層職

員と世話人、他事業所職員との情報共有や連携をはかり、それぞれの機関が入居者の現在の状態像を共有、把握できるようにしていく必要がある。

## 2. 重点課題に取り組んだ事項

### (1) 虐待防止について

法人虐待防止役職員研修に参加し、その中で、ドキュメンタリーDVDを鑑賞し、自閉症の障害特性や支援方法について学び、ご家族の苦労を共有した。また、世話人会議で入居者個々の行動の特性を整理し、援助の内容や方向性を検討した。入居者個々の行動にたいする本人の気持ちを理解、共有することができた。さらに援助内容に関して職員と世話人が共通認識をもって本人の援助に取り組むことができた。

### (2) 入居者の特性に応じた暮らしの場づくり

本人の生活リズムを尊重しながらホームでの共同生活に馴染めるようスケジュールの提示や約束事など確認し、またホームで楽しみを持って過ごされる時間帯や利用者同士の余暇道具などの使い方についても視覚支援を使い丁寧に説明した。

### (3) 入居者の主体性を大切にして、質の高い援助を行う

個々の入居者の支援の方向性について、世話人会議等通じて共有しつつ、今年度は軽度の運動（散歩・ボール投げ・野球など）を取り入れ、体力維持に努めた。天候等による冬季の時期の課題がある。また、入居者によってはグループホームでの暮らしが次につなげる通過点の役割を担っている場合もあることも共有できた。

## 3. 活動報告

### (1) 入居者の状況

#### ①生活

##### (生活環境)

- ・施設内外の掃除、除草等定期的に行い、場面によっては、入居者の方も一緒に行っている。
- ・入居者の居室掃除は、職員と計画を立てて共に行い、世話人による声掛け等個々に応じた支援をしている。

##### (保健衛生)

- ・加湿器の設置と食事前には手指消毒用アルコールスプレーを常時使用し、感染予防に努めた。
- ・体重、体温・血圧（特定の入居者のみ）を定期的に計測し、体調の把握に努めた。体調不良があった場合は、看護師と連携し、必要に応じて医療機関を受診した。

##### (食事)

- ・苦手な食べ物でも食べられるようにアレンジして提供した。

##### (余暇)

月 日	内容	場所	参加数	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
4月 9日	お花見	荒神山公園	3名	2名
5月 2日	おやつ外出	シャーレ水ヶ浜	1名	2名
7月 16日	BBQ 大会	グループホーム	4名	3名
12月 19日	クリスマスお楽しみ会	愛知川ボウル他	5名	3名
3月 16日	日帰り旅行	ヤンマーミュージアム ローザンベリー多和田	5名	5名



## ②社会参加について

月 日	内容	参加数	
		サンコスモ滝井	そよかぜ
5月15日	彦根学園祭	4名	4名
7月9日	スペシャルスポーツカーニバル	4名	3名
7月10日	参議院通常選挙	2名	1名
8月28日	納涼ソーメン流し	3名	4名
9月24日	どんぐり秋まつり	4名	0名
10月9日	三津町町民フェスタ	3名	1名
11月26日	クリスマスコンサート	4名	0名

## ③地域生活、職場における問題への対応

- ・他事業所と連絡ノートを活用し、状態の共有を行った。
- ・入居者の日中活動の様子や帰省時の様子を、日中活動の事業所職員や家族より個別懇談会やケース会議を通じて状況を共有し、課題の整理や援助方針の確認を行った。また、日中活動の事業所や家族より電話での相談を受けて、必要な情報を提供し支援の再検討を行い対応した。

## ④相談

- ・職場での人間関係、ホーム内での人間関係、家庭における困り事など相談を受けて、助言を行った。必要がある場合は、関係機関や家族と情報を共有し、本人のサポートを行った。
- ・小遣いの使い方や、ホームでの必要な物品の購入や外出時の費用などの相談も受けた。必要に応じて、権利擁護事業担当者や成年後見人等と連携して対応している。

## ⑤個別支援計画

- ・5月、11月に個別懇談会を実施し、個別支援計画の説明を行ない、入居者、家族・後見人等の意見を得ながら取り組むことができた。モニタリングは、世話人会議にて入居者の状況を確認し、本人と直接面談を行った。

## ⑥家族、保護者等との連携

- ・帰省毎に連絡ノートや、電話連絡等を行い、情報共有を図っている。また、ご家族に対する援助を目的としたケース会議に出席し、関係機関と定期的に情報共有している。

### (2) 世話人について

- ・各ホームの世話人会議を毎月1回実施し、入居者の状態把握や支援の方向性等、情報を共有し個別支援計画に活用した。一人職場なので、孤立することないようにコミュニケーションを図った。高齢の世話人も多いので勤務状況の確認等を行った。

### (3) 危機管理について

- ・火災を想定した避難訓練を年2回合同で実施し、通報や避難手順、不足物品の確認など行った。
- ・彦根市の合同防災訓練に参加でき、行政との連携も確認できた。
- ・相模原市の障がい者支援施設の事件を受けて、彦根警察署の指導を受け、玄関前に「防犯ブザーあり」の表札を掲示し、ホーム内には防犯ブザーを設置した。

## 平成28年度 つばきはらファクトリー 事業報告

### 1. 総括

#### (1) 就労移行支援事業

今年度も、1名の利用者が就労することができた。

就労アセスメントは、昨年度と変わらない実績を残すことができた。しかし、他事業所への訪問によるアセスメントケースが多く、事業所への負担が大きいため、学校や自立支援協議会へ課題として伝えた。

就労移行支援事業は2年間という有期限のサービスであるため、利用率（定員に対する利用割合）が上がらない現状があり、学校や関係機関に情報提供を行っていく。しかし、他法人の就労移行支援事業所についても、同じ課題があるため、県下の情報を得ながら対応を検討していく。

#### ●重点課題に取り組んだ事項

① 一人でも多くの方が、一般就労できるように支援する。

週に1回、作業終了後に、就労に向けて基本的なことが学習できるように勉強会を行い集団面接会に参加した。企業見学を3社行い、企業実習も3社行うことで、企業就労のイメージを持ってもらえるようにした。その結果、うまくマッチングし、今年度も1名の方が就労することができた。また、アビリンピック滋賀に参加し、オフィスアシスタント部門で銀賞を取ることができた。

#### (2) 就労継続支援B型事業

利用者に仕事のやりがいを持ってもらえるように様々な取り組みを行った。利用状況については、昨年よりも若干少ないものの、安定した利用があった。一人当たりの工賃についても、小幅ではあるが、順調に増やすことができた。

#### ●重点課題に取り組んだ事項

①利用者がやりがいを持って仕事ができるように支援する。

作業工程等の改善を行い利用者のやりがいにつながり、一人当たりの利用日数も増えてきた。また、請負企業からも品質が良いと評価をうけ、利用者の自信につながった。

②工賃向上を図る。

自主製品の売り上げ向上に努めるため、新たに「和っふる」の贈答用と記念日用を販売し、昨年度以上に収入を伸ばすことができた。請負作業についても、実質、昨年よりも収入を増やすことができた。

#### (3) 共通

①虐待防止に努め、よりよい支援を行う。

職員会議で個別ケースについて、KJ法を使って、利用者のストレスを共有した。ストレスを理解することで、利用者の良い所を見つけようという意識が持てるようになってきた。

②より良い人材を育成する。

施設見学を実施し他の事業所の支援について学習をした結果、支援の方法や連携などを学ぶことができた。

## 2. 活動報告

### ①行事

研修日	内 容	参 加
5/11	利用者旅行 場所 名古屋港水族館	19名
9/22	バーベキュー大会	22名
12/23	クリスマス会・忘年会	21名
1/5	初詣 場所 多賀大社	23名

### 避難訓練

5/31 消火・通報・避難

11/4 消火・通報・避難

### ②保護者・関係機関・地域との連携

(1) 湖東地域自立支援協議会 1回

(2) 湖東地域自立支援協議会 労働部会 9回

(3) 稲枝商工会新年名刺交換会 1/6

(4) 保護者懇談会 11/23 保護者個別懇談会 4/29～5/13

(5) 就労移行支援事業所協議会 1回

(6) NPO法人社会就労事業振興センター 1回

個別経営指導 4回

### ③実習生の受入

介護等体験実習で1名、保育実習で1名の計2名の受入を行った。